

青木陵子

Ryoko Aoki 1973- 日本

すごい山の上 向こうはどこかに通じている どこが道なのかわからない。
道の先はよく知らないが、振り向くとよく知っている

青木陵子+伊藤存「変化する自由分子のWORKSHOP」展(2020)のためのテキストより

青木陵子は、動植物や日常の断片、幾何学模様などをイメージの連鎖で描き、その素描を組み合わせた作品を制作。

本展のドローイング群は「変化する自由分子のWORKSHOP」展(2020)で発表された作品。「リボンアート・フェスティバル」(石巻市、2017、2019)で得た、自然との対話、人の手により編み出される知恵などの経験をもとに、「人がつくる」ことの可能性を展開させた。

2019年の「リボンアート・フェスティバル」では網地島で畑をつくり、島の漁師さんたちに教わりつくった網の作品や、島の記憶、出来事、言い伝えをグラフィックにした旗の作品などを展示。ドローイング「海に浮かぶ畑」は、その制作過程で生まれた作品。島の不思議な時間と、歩いて移動することによって変化していく風景や空間がそのままドローイングにあらわれている。アニメーション作品「9才までの境地」は、伊藤存との共作で、2000年頃から制作をつづけているシリーズ。子どもの成長を観察しながらつくられている。「変化する自由分子のWORKSHOP」展で作品をつなぐように展示された。